

中之島芸術センター開館記念
中村恭子日本画作品展

風景の肉体

BODY AS
ANTI-ANTHROPOMORPHIC
LANDSCAPE

外部を召喚する
書き割りの
カラダ

ART.OSAKA-U.AC.JP



2023

9/6 (wed) ~ 9/30 (sat)



大阪大学中之島芸術センター

風景の肉体

中之島芸術センター開館記念
中村恭子日本画作品展

日本の古画に見られる書き割りのような図形平面の山並み風景は、向こう側への視界を遮る知覚可能な限界として「バウンダリー」でありながら、向こう側としてさえ概念化できない外部を召喚する「フロンティア」でもある。明確に知覚される物質的な体に、外部という抽象性を召喚するとき、外部とい人にも「書き割りの風景としての肉体」が備わるのではないか。そのような創造様式を捉えた中村の制作の実践を示します。

[作家経歴]

中村 恭子
NAKAMURA, Kyoko

日本画家。

長野県下諏訪町生まれ。

2005. 東京藝術大学日本画専攻卒業、

2010. 同大学院博士課程日本画研究領域修了
博士(美術)取得。

現在、大阪大学中之島芸術センター 准教授、
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研
究所 フェロー、早稲田大学総合研究所 招聘
研究員。

著書に『TANKURI—創造性を撃つ—』(共著、
水声社、2018) など。

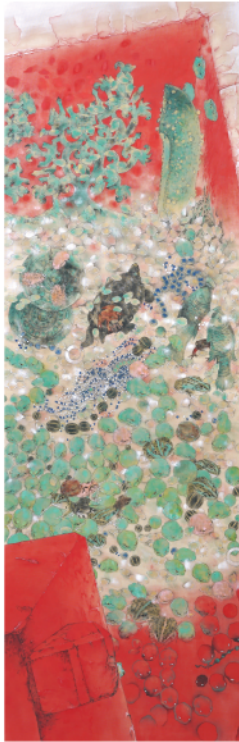
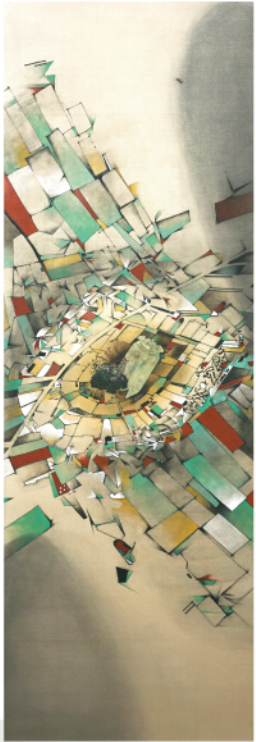
作家ウェブサイト: KYOKONAKAMURA.JP

フロンティア・バウンダリーは、郡司が『やってくる』(医学書院、2020)で示した概念構造である。フロンティアという抽象とバウンダリーという具象を接続しようとする努力の果てにある諦めが、創造を生み出すというこの意味を、分野を超えて議論する。



中村恭子×郡司へぎ才幸夫×伊東信宏
大阪大(日本画) 早稲田大(天然知能研究) 大阪大(音楽学)

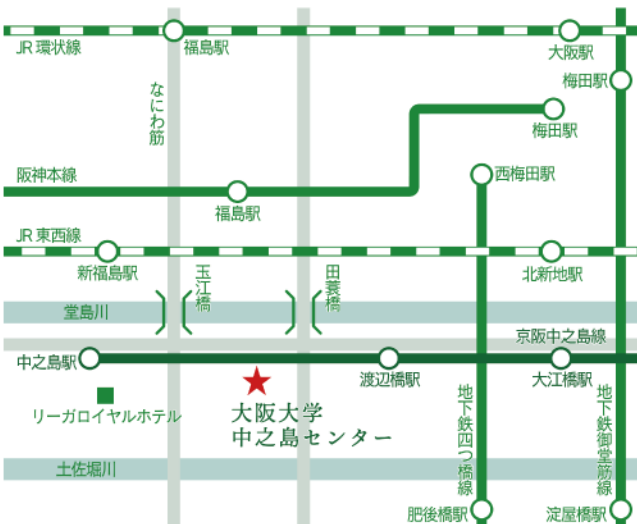
公開シンポジウム
「創造の装置」
9/9 (sat) 14時半～16時
[会場] 3階スタジオ
[参加料] 無料
申込不要



中村恭子筆(左)《古墳蟬》、(中央)《たふれこころの吊尾根》、(右)《トランジ墓式同居》
反古墳三部作、各一幅、絹本彩色、88.5×85 cm、2021-22年



中村恭子筆《熊奏図》
二曲屏風、紙本彩色、180×200 cm、2012年



中之島芸術センター開館記念
中村恭子日本画作品展「風景の肉体」

大阪大学中之島芸術センター

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53

大阪大学中之島センター4階展示室+5階いのち共感ひろば

【開場時間】9月6日(水)~9月30日(土)/10:30~17:00/月・祝閉場

【入場料】無料

【問合せ先】TEL 06-6444-2139 / E-mail kyoko.art@osaka-u.ac.jp

【共同主催】大阪大学中之島芸術センター、
社会ソリューションイニシアティブ (SSI)



科研費
KAKENHI

科研費基盤研究(C)
23K00237, 22K12231